

山城ガールむつみの出陣のススメ 「いざ、松崎城へ！」の巻

松崎城は寺院である勝榮山能満寺を中心とした舌状台地に築かれたお城です。

周囲は切り立った断崖になっていて、当時は湿地に囲まれていたと思われます。周りを歩くと、天然の要害の姿が浮かんできますが今は集落が築かれていて、当時の状況は定かではありません。能満寺を中心として、城域が広がっていたのでしょう。

しかし、周囲には曲輪、土塁、堀を散見することができ、虎口と思われる遺構も残っています。今後の調査や整備が楽しみなお城です。能満寺はもとは日蓮寺という寺名だったといい、正木氏に關係する寺院です。そのため、松崎城と正木氏の関連性が指摘されています。日蓮の生誕地に創建された誕生寺の隠居寺とも、日蓮寺（南房総市）の隠居寺ともいわれ、日蓮宗の中でも重要なお寺でした。

☆「まっさき」ミステリー☆「まつさき」でも「まつざき」でもなく「まっさき」なのだ！

松崎城が築かれた「松崎」のエリアは、地元では「まっさき」と呼ばれています。なぜ？地元の方に聞いても、ずっと昔から「まっさき」と呼んでいたとのこと。

……もしかして、「まっさき」は「正木」では？と私は思いました。多古は戦国時代に里見氏家臣だった正木氏に攻められています。

そのことから、多古と正木氏は深い関係があるのです。さらに、松崎城が築かれた台地に残る能満寺には正木氏に関する伝承が残っています。

能満寺の寺伝によると、創建されたのは天文5年（1536年）。開山開基は勝榮院日蓮上人。日蓮上人は勝浦城主正木時通とされています。時通が出家し、日蓮となりました。日蓮は日蓮上人旧蹟を「日蓮寺（南房総市）」として再興。その隠居寺として、多古にも日蓮寺を創建したといわれています。その多古の日蓮寺が現在の能満寺です。そして、ここを里見氏の北総最前線の場所としたといわれています。ということは、能満寺の寺伝によると、松崎城は里見氏方の正木氏の城ということになります。ただし、過去帳によると、日蓮は時通ではなく、時茂だといわれています。時茂は時通の父の兄にあたります。創建も天文5年（1536）と天正3年（1575）の2説があります。いずれにしろ、この能満寺と松崎城が正木氏と深い関連があるのは確実のようで、「まっさき」という呼び名は「正木」から来てるかも？と考えてしまいます。

さらに、境内には「天正3年（1575年）11月9日」の題目石碑があります。これは、正木時通が死んだ次の日の日付。この年号は創建年の候補にもなっている年です。ますます、正木氏との繋がりを感じ、日蓮は誰なのか？いつここに寺と城を築いたのか？など、謎は深まります。引き続き、調べていきたいと思っています！

鐘樓が門と合体した珍しい鐘樓門。
江戸時代末期の建立とされています。



能満寺の鐘樓門と鐘樓門までの階段。結構急峻な階段。
「こんな階段、のぼりたくないーい！」って言わないで（笑）
お城なので急なのは当然！登ってる途中に、両サイドにひな段状の腰曲輪があります。
この能満寺も何らかの形で防御的な加工が施されていたのが見て取れます！楽しい！



松崎城のまわりにはこんな土塁も残っています。ただ、私有地も多いので、見学の際はお気をつけ下さいね♡

南房総市・日蓮寺



多古にGO！



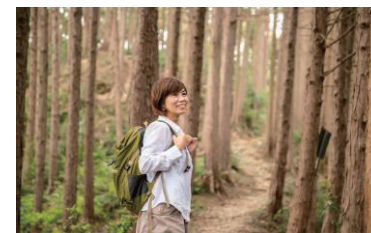
ぜひ、現地に足をお運びください！
近くには玉造城もあり、このあたりの谷が重要視されていたのを感じることができますよ。

行ってびっくり！
虎口も残ってた！
周りを歩くと
お城の雰囲気満点！



なんだ！？ なんだ！？
どうのことだ？
自分で推理するって楽しい～♡
これは行かないや！！

能満寺と同じ「勝榮山」の山号をもつ日蓮寺。荒れていた寺を1571年に里見氏の家臣正木時通とその弟の頼忠が中興しました。そのため、境内には時通、頼忠兄弟の供養塔が残っています。



山城ガールむつみ